

甲 第 号

上田 淳哉 学位請求論文

審 査 要 旨

奈 良 県 立 医 科 大 学

## 論文審査の要旨及び担当者

	委員長	教授	西 真弓
論文審査担当者	委員	教授	高橋 裕
	委員(指導教員)	准教授	牧之段 学

### 主論文

A randomized controlled trial evaluating the effectiveness of a short video-based educational program for improving mental health literacy among schoolteachers

短編映像教材視聴による学校教員のメンタルヘルスリテラシー教育の効果の検討

Junya Ueda, Satoshi Yamaguchi, Yasuhiro Matsuda, Kosuke Okazaki, Tsubasa

Morimoto, Seiya Matsukuma, Tsukasa Sasaki, Toshifumi Kishimoto

Frontiers in Psychiatry. 2021 Feb 26;12:596293.

## 論文審査の要旨

精神疾患予防の視点から、学校教育の一環としてメンタルヘルスを教える必要性がかつてより議論され認知されてきた。申請者は生徒のみでなく教員のメンタルヘルスリテラシーも十分でないことに着目し、教員向けの知識提供目的の研修会を開催し、知識やスティグマに及ぼす影響を検討した。研修会は介入の均一化を図るために DVD 教材を用いた。介入群では非介入群と比較し、精神疾患に関する知識および精神疾患の特定の正答率の向上が確認されたが、精神疾患に関するスティグマに関しては有意な変化を認めなかった。

公聴会における質疑応答では、児童が精神的問題を生じる原因（いじめ、家庭問題など）に対する介入の方法について、スティグマに関する文化的背景、画像診断等を用いた生物学的基盤の探索などの質問に対し、今回は一般的な知識提供が目的となっており個別の事案が生じた際に、学校のみならず本人や家族に対する疾患心理教育を行う環境整備が必要であること、文化的発展によって、呈した症状が治療可能な医学的疾患であるとの認識・覚知に差がある可能性があること、また fMRI 研究によりスティグマ軽減の維持と扁桃体と鳥距溝の結合性に相関が見られたことから、画像研究と組み合わせることで客観的な評価ができる可能性があることなど、適切な回答がなされた。

本研究は、メンタルヘルスリテラシーやスティグマに関する研究を遂行し意義ある知見を見出したことで精神科研修医や学生の知識習得および偏見の軽減に寄与し、教育に資する結果を示した重要な研究と考えられる。

## 参 考 論 文

1. 【学校における精神保健リテラシーと精神疾患教育】教員の精神疾患教育に取り組んで  
上田淳哉、松田康裕、岸本年史 精神科 35 巻 5 号 Page483-487(2019.11)
2. 奈良県における教員向けメンタルヘルス・リテラシー教育プログラムの実践について  
(第 42 回日本自殺予防学会総会「あるべきように生きる：地域のつながりの中で自殺を防ぐ」) -- (シンポジウム 自殺予防教育の方向性を探る：多様な取り組みの可能性と課題)  
松田康裕、上田淳哉、岸本年史 自殺予防と危機介入 39 巻 1 号 Page73-76(2019. 3)

以上、主論文に報告された研究成績は、参考論文とともに精神医学行動神経科学の進歩に寄与するところが大きいと認める。

令和4年 3月 8日

学位審査委員長

分子生体構造科学

教授 西 真弓

学位審査委員

糖尿病・内分泌内科学

教授 高橋 裕

学位審査委員(指導教員)

精神医学行動神経科学

准教授 牧之段 学